

株式会社馬場運送の巻

(千葉市)



▲林社長(右)と宮下専務

日本各地で食の安全を脅かす事件が発生しています。中国から輸入した冷凍中国製餃子からは、主に殺虫目的で使用される有機リン系農薬「メタミドホス」が検出され、その餃子を食べた家族が下痢や嘔吐の症状を訴え、店頭からは、中国製関連食品が一斉に回収されました。また、食品の偽装や製造日の改ざんなど、多くの消費者の期待や信頼を裏切る結果となり、非常に残念ではありません。

食事は、病気の治療とともに生命を養い、健康を保つうえで欠かせないものです。食品に携わる方々には、責任をもって安全な食品を提供できるように万全の体制で臨んでいただきたいのです。

* * *

朝晩の冷え込みも一段落し、全国各地から春の便りを耳にすることも多くなりました。晴天にも恵まれた三月六日、第五三回目の事業所訪問として、本社が千葉市に所在する株式会社馬場

運送(林美和社長)の業務拠点でもある成田空港内の営業所にお邪魔しました。

成田市は、関東地方の東部、千葉県の北部中央の北総台地に位置する商業都市です。北は利根川を隔てて茨城県と接し、西は県立自然公園に指定されている印旛沼、東は香取市と接しています。北部から東部にかけて工業団地やゴルフ場が点在し、南には日本の空の玄関口・成田国際空港があります。また、市の中心部である成田地区は、千年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参拝客でにぎわいを見せています。平成十八年三月には香取郡下総町、同郡大栄町の二町と合併し、新生・成田市が誕生しました。豊かな水と緑に囲まれ伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市といえます。

本日の目的地は、東関東自動車道成田ICから空港方面に進み、第二ターミナルの反対側にある貨物地区内に同社の事務所がありました。「こんにちは、

徹底した安全対策や社員教育により物流のスペシャリストをめざす

同社の安全対策への取り組みについて伺うと、以前は四月と十月の年二回の総会に社員全員を参加させ、業務災害に対する安全指導をしていたそうです。しかしながら残念なことに、事故の件数は減少しなかったそうです。

そこで、同社では関係者の協力を得て、社員一人ひとりの安全意識の向上に着目し、現場単位でのグループディスカッションを取り入れたそうです。その主なポイントは、「協調性」、「リーダーシップ」、「傾聴力」といった対人能力にあります。会社から一方的にテーマを提示するのではなく、社員自らが安全対策に対するテーマを掲げ、現場を知る人間



▶緑色にペイントされた馬場運送のトラック

同士が意見を出し合い議論することにより、馬場運送の一員として「自分には何ができるのか?」、「どうしたら安全に輸送ができるのか?」な

ど、社員に責任感をもたせることを重視したそうです。

その結果、事故の件数は年々減少しているそうです。林社長は、「事故を減少させることは容易なことではなく、長い月日がかかる。地道な作業ではあるが、輸送の安全に努めることで顧客サービスが向上し、地域社会へ貢献できる。会社が成長することは、社員およびその家族の幸せにもつながる」と力強くおっしゃられました。社員一丸となって物流のスペシャリストをめざす意気込みを感じることができました。

加えて、環境問題にも積極的に取り組んでいらつしやいます。環境保全に関する法規制を遵守することはもちろんのこと、社員への教育や啓蒙活動はトラック協会から送付されるパンフレットなどを社員全員に配付し、有効に活用しておられます。また、ドライバー・事務間の連携による業務の効率化やアイドリング削減などに努め、「燃費一〇%アップ」を目標に掲げているとのことでした。

ある統計によると、輸送機関別の二酸化炭素排出量の半分が、家用乗用車の使用により排出されているそうです。電車やバスなどは、一人当たりの輸送に必要なエネルギーが少なく済むので、近いところは徒歩や自転車、遠いところではできるかぎり公共交通機関を利用するように心がけてみましょう

健康組合です」と事務所を訪ねると、「いつもお世話になります。どうぞお入りください」と宮下専務がお迎えくださり、応接室に案内されました。しばらくすると林社長が「おはようございます」と元気な声で入室され、年度末のお忙しいなか、貴重な時間をいただき、取材を始めることとなりました(林社長は当組合の組合会議員に第八期から就任されています)。

時代のニーズなどを情報収集し、努力を惜しまない企業体制により、さらなる企業発展を

同社は昭和四十五年六月に有限会社馬場運送として設立され、当時は車両台数五台にて業務をスタートされました。平成十年には山武郡(現山武市)に

う。どうしても自家用車を利用する場合は、急発進・急加速をしない、適正なタイヤの空気圧にする、アイドリングストップなど、個人単位でもできることから環境問題に取り組んでいきたいものです。

スポーツ、食生活など健康管理は身近なことから

林社長にご自身の健康管理についてお尋ねすると、ライフワークとしてゴルフ腕前はプロ並み!はもちろんのこと、日ごろの食生活、特にカロリーや栄養のバランスなどに気遣われているそうです。宮下専務は、休日になると水泳、ウォーキングでリフレッシュされ、お二人ともふだんから健康にはかなり注意されているようでした。林社長においては、日ごろから本社と成田を行き来するなどの企業経営にご努力され、お体にも大きな負担がかかっていると思いますので、これからは健康には十分留意されることをお祈りいたします。

最後に、馬場運送のトラックは、緑色でペイントされたひととき目立つロゴマークが目飛び込んできます。緑色は林社長のお好きなカラーであり、緑色には、心身のバランスの安定や心を穏やかにするヒーリング効果などがあるといわれています。しかし、いちばんの効果は企業宣伝だそうです。加えて、作業服も緑色でそれぞれが営業

てリサイクル事業を開始、同年に林社長が就任すると、平成十四年には産業廃棄物取扱業務およびバイク便事業を開始、さらに平成十七年には、成田空港にて航空貨物輸送業務をスタートされました。現在は主にパソコン、携帯電話などの精密機器や半導体をメインに全国各地に配送しており、全業務の約六割が空港関係の業務に携わっているそうです。常に必要とされる会社づくりのため、時代のニーズや物流関係、環境問題などの情報収集をし、努力を惜しまない企業体制により幅広く事業を展開されてきました。本年一月には商号を株式会社馬場運送と変更され、取引先とのより深い信頼関係を構築され、さらなる企業発展をめざしているそうです。

林社長が最初に口にされたことは運送業界の現状でした。原油高騰が続くなか、同業者との運賃競争はますます激化しています。同社のように、従業員およびそのご家族の健康と生活を第一に考え、福利厚生を徹底している企業と、福利厚生がまったく充実していない企業とが、同じ土俵で運賃価格競争をすることはきわめて不利であり、「国・行政が厳正なる免許の認可と更新、その後の調査等を厳しく取り扱っていたいただきたい」と提言されました。企業が健全なる運営を図ることができるよう、指導環境の整備を早急に

マンとして取引先や一般の方と接するため、日ごろから責任ある行動が求められているそうです。世間から注目される企業として、これからも頑張ってください。

有意義な取材の時間もあっという間に過ぎてしまいました。林社長をはじめ、馬場運送の皆さま、ありがとうございました。

* * *

春本番を迎え、一年中で最も過ごしやすい時期を迎えましたが、一方、花粉症の方にはつらい時期となりました。現在、日本人の約二〇%が花粉症だといわれています。花粉症は、スギやヒノキなどの植物の花粉が原因となっており、くしゃみ・鼻水などのアレルギー症状を起す病気です。花粉症による経済的損失は、旧科学技術庁(現文部科学省)の試算によると約六〇〇億円であり、花粉症患者の約四割の方が「仕事の能率が落ちた」と回答しているそうです。その反面、花粉症市場をターゲットにしている企業は、業績を上げていることも事実です。

いずれにしても「億」単位のお金を動かすまで影響力をもっている花粉症。そのすべてのカギを握っているのは夏の気温だそうです。夏の気温が高ければ翌年の花粉飛散量が多くなります。花粉症の方にとっては、今年の夏の気温が気になりますね!